

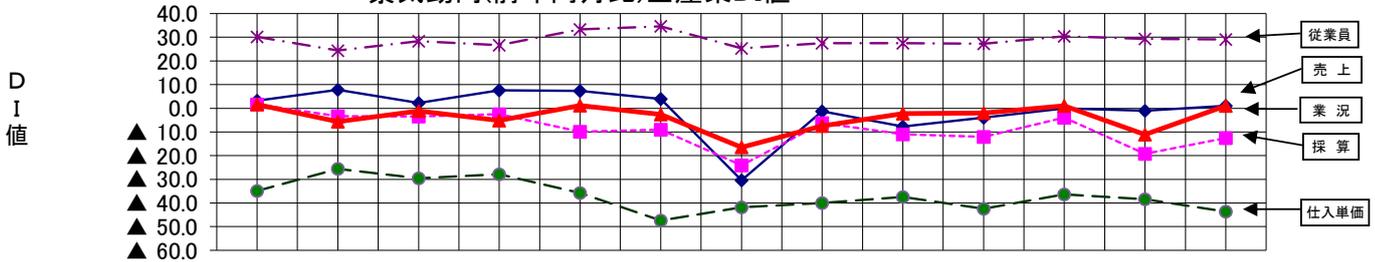
早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 8月分

【8月の概要】 景況感はやや改善、先行きの売上、採算、業況はさらに改善見通し

7月に比べると、仕入単価D Iのマイナス幅が増加しているが、売上D Iと業況D Iはマイナスからプラスに転じ、採算D Iもマイナス幅が減少している。従業員D Iはほとんど変動なし。全般的な景況感の回復基調が続いているが、業種によっては猛暑の影響を受け、景況回復の力強さを欠いた状況となっている。

先行きについては、7月に比べ、売上D Iのプラス幅が増加し、業況D Iはマイナスからプラスに転じた。仕入単価D Iのマイナス幅は増加しているが、採算D Iはやや改善している。従業員D Iのプラス幅は増加した。8月の猛暑が過ぎ、売上、採算、業況は順調な改善が期待されるものの、仕入コスト増と人手不足が続く見通しとなっている。

景気動向(前年同月比)全産業DI値 (平成29年8月～平成30年8月)



	平成29年 8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	平成30年 8月
売上	3.2	7.8	2.3	7.6	7.4	3.9	▲ 30.4	▲ 1.3	▲ 7.7	▲ 4.0	0.0	▲ 1.0	1.0
採算	1.6	▲ 3.3	▲ 3.4	▲ 2.5	▲ 9.9	▲ 9.0	▲ 24.1	▲ 6.3	▲ 11.0	▲ 12.1	▲ 3.9	▲ 19.2	▲ 12.6
業況	1.6	▲ 5.6	▲ 1.1	▲ 5.1	1.2	▲ 2.6	▲ 16.5	▲ 7.5	▲ 2.2	▲ 2.0	1.0	▲ 11.1	1.0
仕入単価	▲ 34.9	▲ 25.6	▲ 29.6	▲ 27.9	▲ 35.8	▲ 47.4	▲ 41.8	▲ 40.0	▲ 37.4	▲ 42.4	▲ 36.3	▲ 38.4	▲ 43.7
従業員	30.2	24.4	28.4	26.6	33.3	34.6	25.3	27.5	27.5	27.3	30.4	29.3	29.1

【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

売上D Iと業況D Iはマイナスからプラス1.0ポイントに転じた。採算D Iは6.6ポイントマイナス幅が減少した。仕入単価D Iは5.3ポイントマイナス幅が増加した。従業員D Iは0.2ポイントプラス幅が減少した。

全産業平均D I - 向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	仕入単価	従業員	業況
7月	14.1	1.0	▲ 31.3	30.3	▲ 1.0
8月	18.5	1.9	▲ 34.0	37.9	8.7

先行きは、売上D Iは4.4ポイント、採算D Iは0.9ポイントプラス幅が増加した。仕入単価D Iは2.7ポイントマイナス幅が増加した。業況D Iはマイナスからプラス8.7ポイントに転じた。従業員D Iは7.6ポイントプラス幅が増加した。

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	塗装工事	猛暑で作業効率悪く厳しい状況である。工事量は多少上向きになっている。
	設備工事	現場管理者の不足により受注がままならない。人手不足により外注人件費等が高騰している。
製造業	酒造	猛暑のため業界全体が低調である。売上は輸出の増加と新商品の投入効果がでている。
	食料品	カートンなど資材価格の上昇により採算が悪化傾向になっている。
卸売業	酒類	アルコール離れや大型店による低価格化傾向が続き、一般店の廃業もあり、宅配便値上げによるギフトへの影響もでている。
	繊維製品	暑すぎで消費者の動きがなかったために小売店の売上が大幅に減となった。
小売業	家具・日用品	業界内の景況は、厳しいままである。
サービス業	飲食	気温が高めで推移しているおかげで、かき氷やソフトクリーム、ドリンクなどよく売れており、その分売上は上がっている。
	タクシー	消費者マインドの低下や猛暑の影響で外出を控える人が多いため売上は低下している。
	ホテル	一般宴会の受注が好調。材料原価は高騰しているが、人員不足から総人件費が抑えられ、収益アップにつながっている。